

『完全燃焼で恩師バーンスタインに肉薄する佐渡裕』

音楽評論家 諸石幸生

佐渡裕は2015年にオーストリアの名門、トーンキュンストラ管弦楽団の音楽監督に就任した。以来、このオーケストラの演奏会は毎回大盛況とのこと。就任1年で任期を4年延長するという快挙も成し遂げ、同時に行われているレコーディングからも、佐渡とオケの極めて良好な関係が満喫されるものとなっている。

待望の第2回目の来日コンサートが、2018年の5月に行われる。しかも、2018年というのは、恩師バーンスタインの生誕100年という節目の年。佐渡裕はすでに録音を済ませたバーンスタイン作品を持って恩師へのトリビュートにするという。この他ショスタコーヴィチの交響曲第5番が演奏されるが、佐渡裕は完全燃焼の指揮で、これらの作品を最善最良の姿で堪能させてくれることであろう。ウィーンでの成功を間近に聴く本ツアー、期待感に心躍る。

「ウエスト・サイド・ストーリー」で世界を席卷した
20世紀の巨匠レナード・バーンスタイン
若き日の佐渡裕は、最後の愛弟子として
晩年最も近くで教えを受けた
師バーンスタイン生誕100年を祝い
手兵と捧げる渾身の記念プログラム！



レナード・バーンスタイン（1918~1990：当時71歳）／佐渡裕（当時28歳）
現在、佐渡裕とトーンキュンストラ管の本拠地であるウィーン楽友協会の楽屋にて。バーンスタイン逝去の8ヶ月前、1990年2月に撮影。

©Akira Kinoshita

©Takashi Iijima

佐渡裕（音楽監督／指揮）

Yutaka Sado

京都市立芸術大学卒業。故レナード・バーンスタイン、小澤征爾らに師事。1989年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。パリ管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ケルンWDR交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等、欧州の一流オーケストラに多数客演を重ねている。2015年9月トーンキュンストラ管弦楽団音楽監督に就任。国内では兵庫県立芸術文化センター芸術監督、シエナ・ウインド・オーケストラの首席指揮者を務める。17年11月22日にトーンキュンストラ管弦楽団を指揮した5枚目のCD「バーンスタインへのトリビュート」を発売。著書に「僕はいかにして指揮者になったのか」（新潮文庫）、「棒を振る人生～指揮者は時間を彫刻する～」(PHP文庫)等。

<http://yutaka-sado.meetsfan.jp>

トーンキュンストラ管弦楽団

Tonkünstler-Orchester Niederösterreich

トーンキュンストラ管弦楽団は110年の歴史を持ち、オーストリアおよびウィーンの音楽文化の中で最も重要な役割を果たしてきた。これまでにクナッパッツブッシュ、ファビオ・ルイーダ、クリスチャン・ヤルヴィらが首席指揮者を務めた。現在はニーダーエスターライヒ州のオーケストラとして、州都ザンクトペルテンの「祝祭劇場」、ウィーンの「楽友協会ホール」、ウィーン郊外の広大な敷地に野外音楽堂を有する「グラフェネッグ」を拠点とし、2007年設立の「グラフェネッグ国際音楽祭」においては毎夏レジデント・オーケストラを務めている。2016年の日本ツアーに続き、17年には佐渡裕と英国ツアーも成功させた。

<https://www.tonkuenstler.at/en>